

容器包装リサイクル法の 現状に係る参考資料

1 . 分別収集及び再商品化の状況	1
品目別の再商品化量推移及び実施市町村数推移 (グラフ)	3
2 . 一般廃棄物の最終処分量の推移	1 1
3 . 事業者による容器包装の軽量化、リサイクルしやすい設計等の事例	1 2
4 . ごみの排出量及び容器包装廃棄物の割合	1 6
5 . 再商品化に係る特定事業者の費用負担等 (指定法人ルート)	1 9
6 . 指定法人ルートの再商品化事業者の動向	2 1
7 . ガラスびんのリサイクル状況	2 2
8 . ペットボトルのリサイクル状況	2 5
9 . プラスチック製容器包装再商品化製品の用途別利用状況 (指定法人ルート)	2 7
1 0 . 紙製容器包装再商品化製品の用途別利用状況 (指定法人ルート)	2 8

1. 分別収集及び再商品化の状況

品目名	年度	分別収集 計画量 (トン)	分別収集 実績量 (トン)	再商品化量 (トン)	分別収集実施市町村		
					市町村数	割合 (%)	人口 カバー率 (%)
無色の ガラス製 容器	15	431,395	356,977	345,208	2,911	92.3	97.5
	14	505,175	348,698	337,888	2,795	86.4	94.7
	13	483,879	355,157	339,443	2,725	83.9	93.8
	12	458,559	352,386	334,549	2,618	81.1	92.6
	11	542,451	326,110	307,237	1,991	61.2	86.3
	10	486,025	322,284	303,240	1,862	57.2	84.6
	9	406,133	292,775	275,119	1,610	49.5	76.8
茶色の ガラス製 容器	15	372,004	309,857	297,510	2,922	92.6	97.6
	14	405,634	304,172	293,240	2,807	86.8	94.8
	13	388,351	311,993	298,785	2,737	84.3	93.8
	12	369,346	312,539	294,959	2,631	81.5	92.7
	11	369,894	290,127	272,559	1,992	61.3	86.4
	10	358,012	274,374	256,227	1,866	57.3	84.6
	9	299,536	243,916	228,170	1,610	49.5	77.0
その他の 色の ガラス製 容器	15	197,500	165,011	157,217	2,872	91.0	97.0
	14	197,930	163,903	156,856	2,740	84.7	93.8
	13	189,620	162,481	152,965	2,706	83.4	93.2
	12	180,459	164,551	150,139	2,566	79.5	91.1
	11	155,603	149,332	134,084	1,915	58.9	83.9
	10	140,443	136,953	123,227	1,784	54.8	81.9
	9	118,536	107,533	95,190	1,535	47.2	74.1
紙製 容器包装	15	147,590	76,878	69,508	748	23.7	27.0
	14	152,764	57,977	54,145	525	16.2	21.0
	13	120,308	49,723	44,675	404	12.4	16.8
	12	86,724	34,537	26,310	343	10.6	13.0
ペット ボトル	15	214,209	211,753	204,993	2,891	91.6	96.5
	14	198,672	188,194	183,427	2,747	84.9	93.5
	13	172,605	161,651	155,837	2,617	80.6	91.8
	12	103,491	124,873	117,877	2,340	72.5	86.9
	11	59,263	75,811	70,783	1,214	37.3	67.4
	10	44,590	47,620	45,192	1,011	31.1	62.0
	9	21,180	21,361	19,330	631	19.4	41.8
プラスチック製 容器包装	15	486,585	401,697	384,865	1,685	53.4	59.3
	14	486,727	282,561	268,640	1,306	40.4	48.4
	13	389,272	197,273	180,306	1,121	34.5	43.6
	12	239,174	100,810	77,568	881	27.3	30.7
うち 白色 トレイ	15	10,214	4,217	3,993	1,013	32.1	23.1
	14	14,882	3,552	3,239	800	24.7	22.0
	13	11,865	3,402	3,011	726	22.4	20.4
	12	8,277	3,039	2,499	612	19.0	15.3

品目名	年度	分別収集計画量 (トン)	分別収集実績量 (トン)	再商品化量 (トン)	分別収集実施市町村		
					市町村数	割合 (%)	人口 カバー率 (%)
スチール缶	15	507,815	393,650	387,875	3,116	98.8	98.5
	14	620,045	419,667	415,364	3,123	96.5	97.7
	13	598,648	461,357	450,229	3,104	95.6	97.3
	12	576,461	484,752	476,177	3,065	94.9	96.9
	11	636,099	471,127	456,892	2,625	80.7	91.8
	10	590,858	471,638	461,347	2,572	79.0	91.4
	9	526,701	464,662	443,506	2,411	74.1	86.4
アルミ缶	15	170,742	139,321	137,055	3,108	98.5	98.5
	14	189,519	145,789	144,101	3,130	96.8	97.6
	13	181,111	141,408	137,753	3,112	95.9	97.4
	12	172,889	135,910	132,386	3,078	95.3	97.0
	11	187,025	128,541	124,690	2,647	81.4	92.0
	10	170,535	121,214	117,315	2,587	79.5	91.7
	9	148,885	112,527	107,455	2,420	74.3	86.7
段ボール	15	641,117	554,309	538,043	2,446	77.5	80.4
	14	486,107	502,903	498,702	2,105	65.1	72.0
	13	458,519	448,855	438,598	1,942	59.8	67.1
	12	434,888	380,290	372,576	1,728	53.5	61.0
紙パック	15	24,911	16,636	15,742	2,031	64.4	79.0
	14	35,502	15,696	15,358	1,849	57.2	74.1
	13	31,514	13,136	12,435	1,756	54.1	70.9
	12	28,065	12,565	12,071	1,599	49.5	69.1
	11	36,626	9,574	9,416	1,176	36.2	54.9
	10	30,072	8,939	8,670	1,111	34.1	54.7
	9	23,028	6,644	6,419	993	30.5	43.4
合 計	15	3,193,868	2,626,089	2,538,016	-		
	14	3,278,075	2,429,560	2,367,721	-		
	13	3,013,827	2,303,034	2,211,025	-		
	12	2,650,056	2,103,213	1,994,612	-		
	11	1,986,961	1,450,822	1,375,661	-		
	10	1,820,535	1,383,022	1,315,218	-		
	9	1,543,999	1,249,418	1,175,189	-		

- 1 「再商品化量」とは再商品化計画に基づき再商品化を行う再商品化事業者に市町村が引き渡した量である。
- 2 全国の総人口は平成15年4月1日時点で12,745万人。

品目別の再商品化量推移及び実施市町村数推移(グラフ)

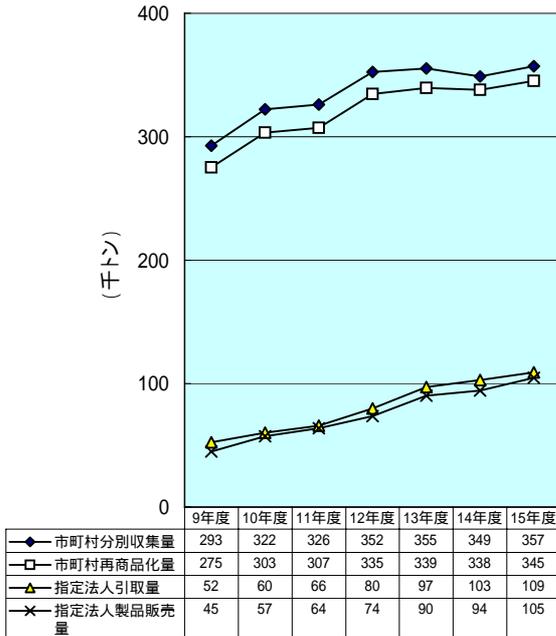
(1) ガラスびん(無色)

制度開始当初から、随意契約による市町村独自再商品化量(市町村再商品化量と指定法人引取量の差)が再商品化量の大半を占めている。

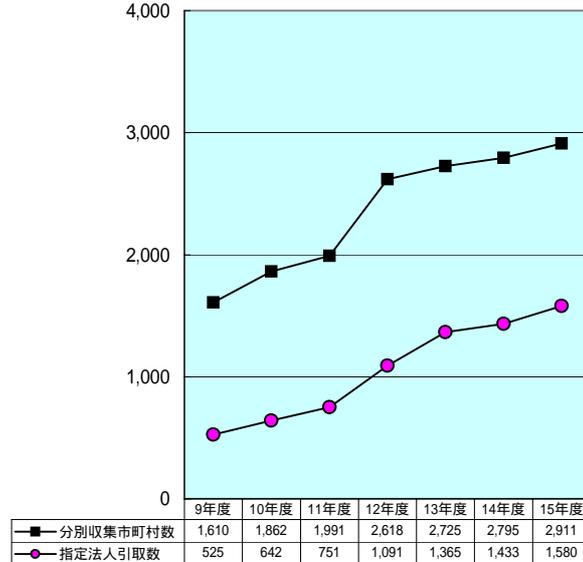
一方、市町村独自再商品化の状況に大きな変化は見られないことから、市町村再商品化量の増加分は、指定法人ルートで再商品化されているものと推定される。(平成9年度に19%であった指定法人引取の割合は、平成15年度に31%まで上昇。)

分別収集を行う市町村は増加基調にあり、平成15年度には全国市町村数の約92%に当たる2,911市町村が分別収集を行っており、このうち約半数の1,580市町村が指定法人ルートで再商品化を行っている。

【再商品化量推移】



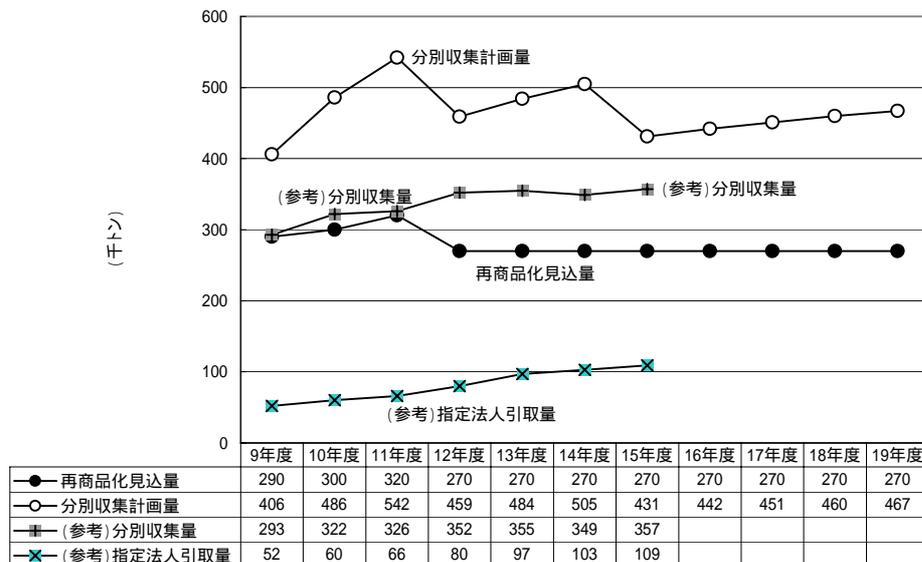
【実施市町村数推移】



再商品化量推移グラフの見方のポイント

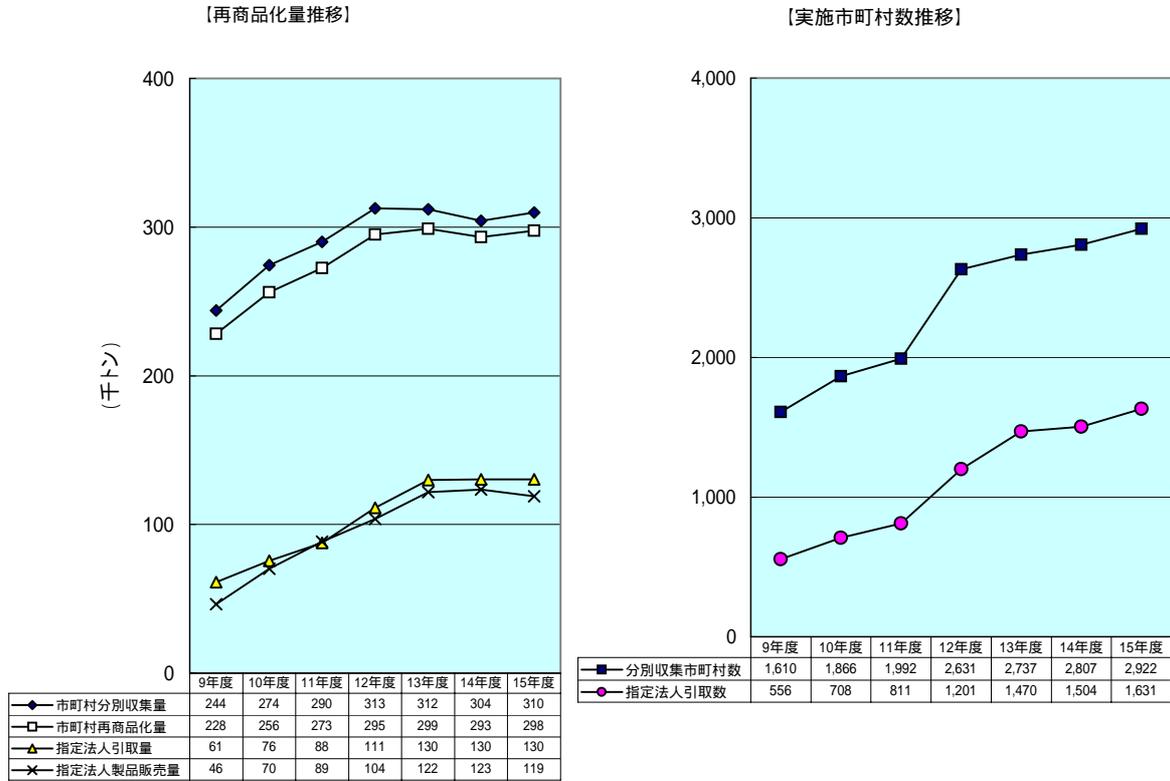
- - と - - の差: 市町村が分別収集した容器包装廃棄物のうち、再商品化以外の独自処分量
- - と - - の差: 随意契約等による市町村独自再商品化(再商品化事業者引渡)量
- - と - x - の差: 指定法人ルートの再生処理において発生する残渣量(x/ が指定法人ルートの収率)

(参考)再商品化見込量、分別収集量の推移

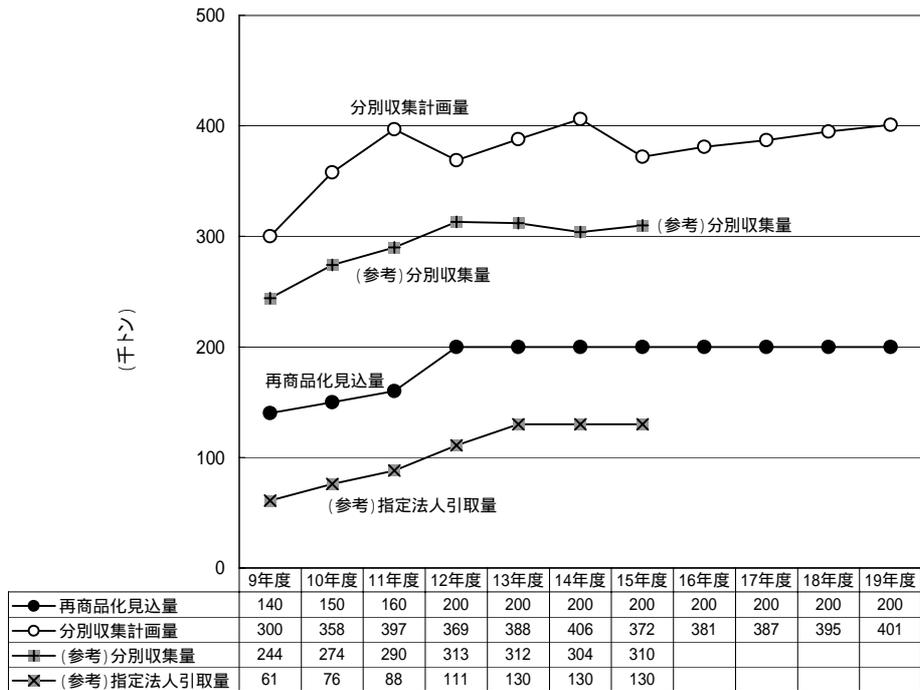


(2) ガラスびん(茶色)

無色とほぼ同様の傾向を示しているが、無色よりも指定法人ルートでの割合が大きい。(平成9年度:27% 平成15年度:44%) 指定法人ルートで再商品化をする市町村数が無色よりも多い。

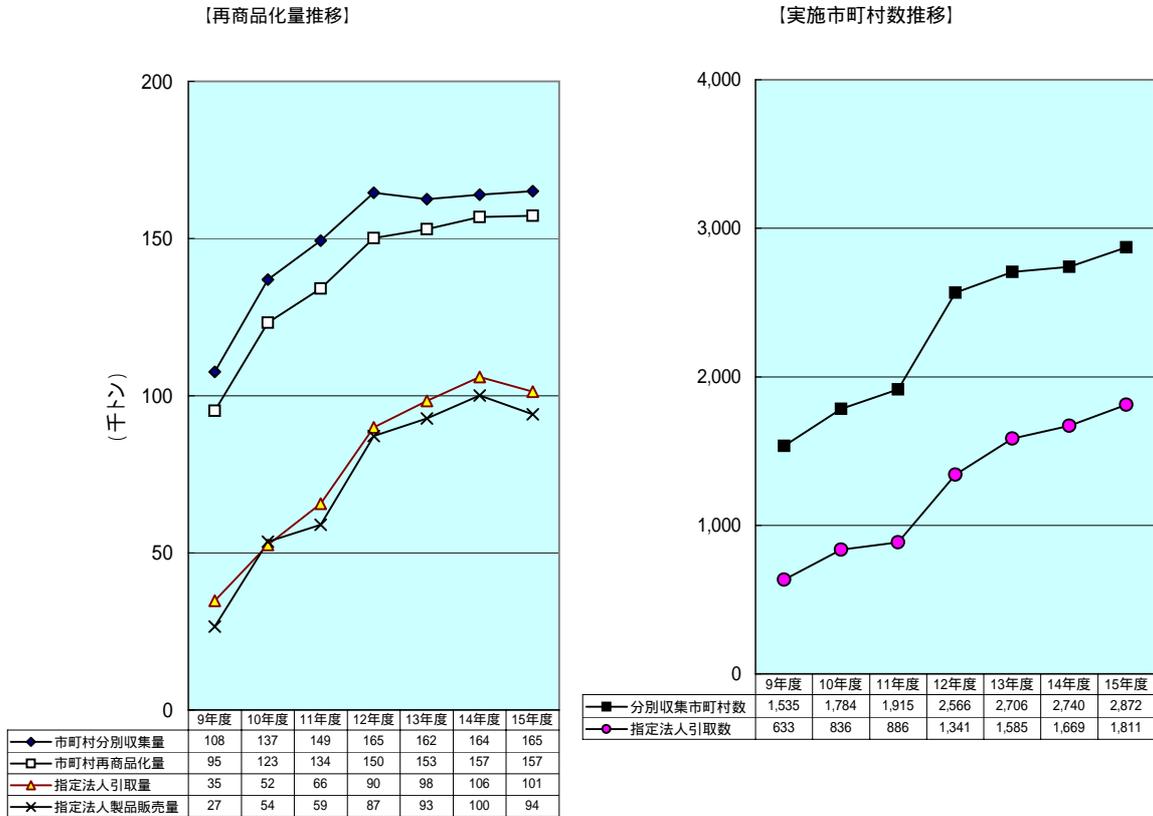


(参考) 再商品化見込量、分別収集量の推移

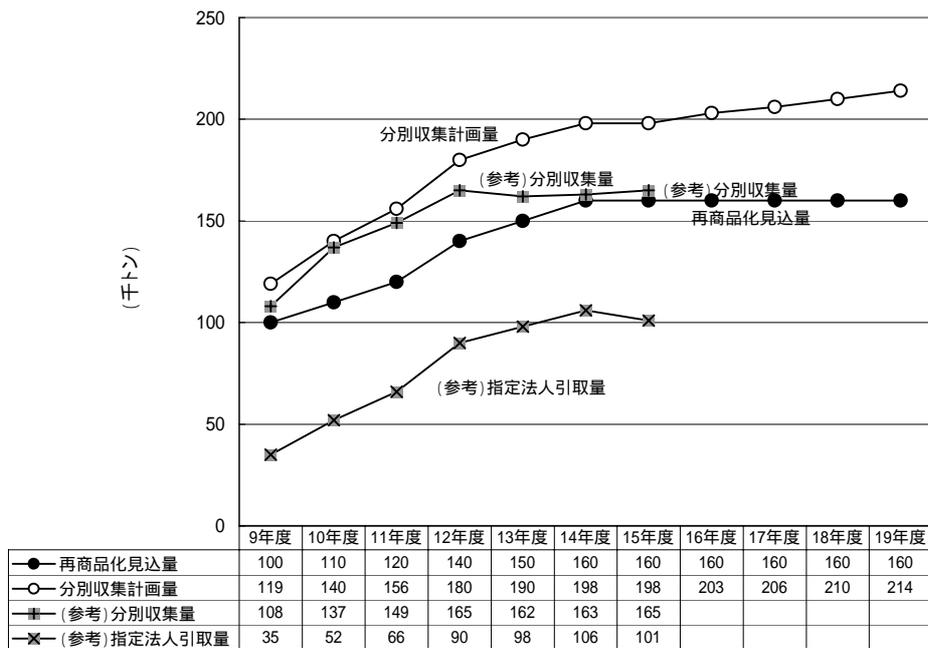


(3) ガラスびん(その他色)

傾向としては、無色、茶色と同様であるが、指定法人ルートによる割合が最も大きい(平成9年度:37% 平成15年度:64%)。3色中、指定法人ルートを活用して再商品化を行う市町村が最も多い。



(参考)再商品化見込量、分別収集量の推移

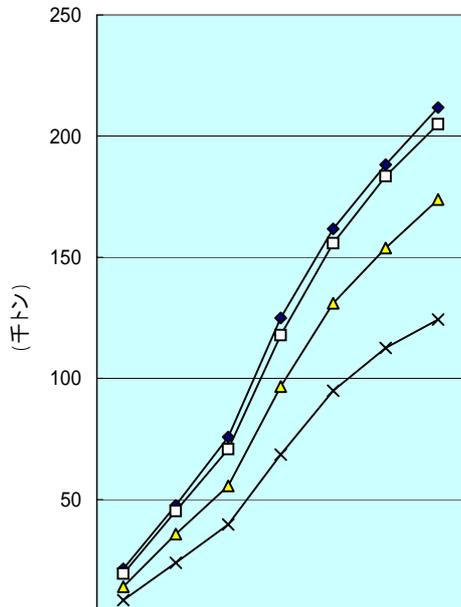


(4) ペットボトル

平成9年度の施行後、再商品化量、実施市町村数とも急激に増加しているが、独自処理を行う市町村も増加傾向にある。

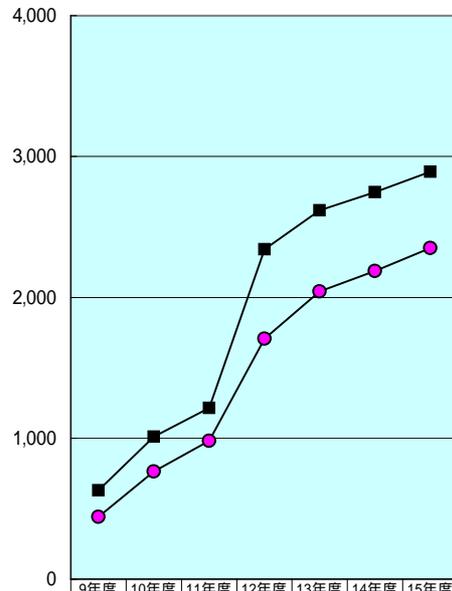
平成9年度に57%であった指定法人ルートでの収率(製品販売量/引取量)は年々上昇し、70%台まで至っており、再商品化効率が図られてきたと言える。

【再商品化量推移】



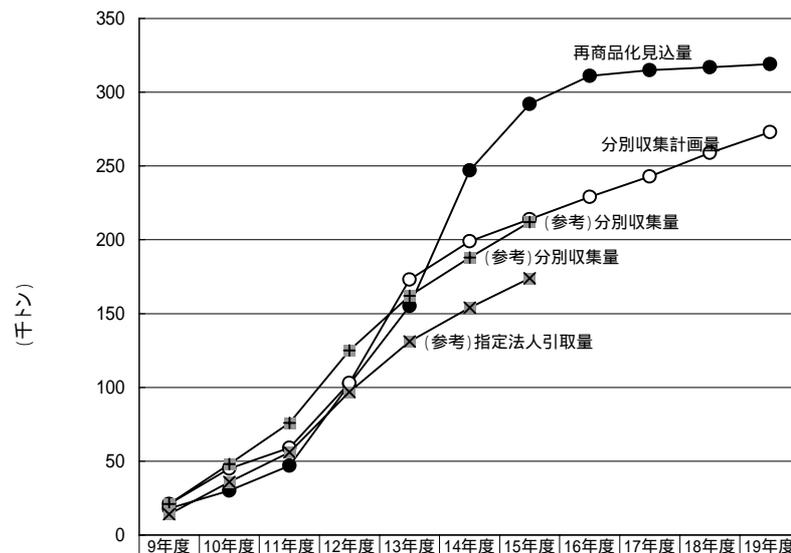
	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度
市町村分別収集量	21	48	76	125	162	188	212
市町村再商品化量	19	45	71	118	156	183	205
指定法人引取量	14	36	56	97	131	154	174
指定法人製品販売量	8	24	40	69	95	112	124

【実施市町村数推移】



	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度
分別収集市町村数	631	1,011	1,214	2,340	2,617	2,747	2,891
指定法人引取数	443	764	981	1,707	2,042	2,186	2,351

(参考)再商品化見込量、分別収集量の推移

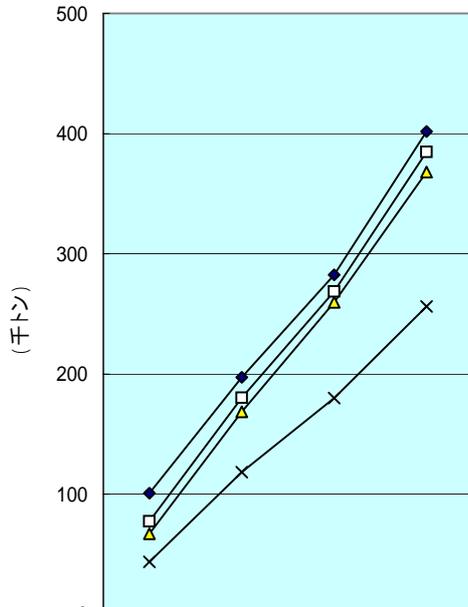


	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
再商品化見込量	18	30	47	102	155	247	292	311	315	317	319
分別収集計画量	21	45	59	103	173	199	214	229	243	259	273
(参考)分別収集量	21	48	76	125	162	188	212				
(参考)指定法人引取量	14	36	56	97	131	154	174				

(5) プラスチック製容器包装

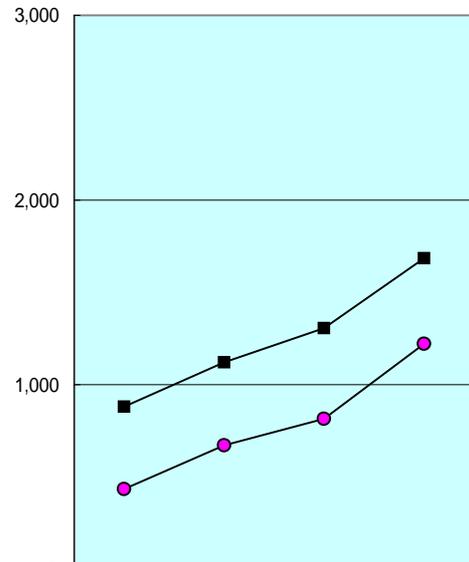
平成12年度の施行後、毎年10万吨規模で増加している。市町村が分別収集したもののほぼ全量が指定法人ルートで再商品化されている(平成15年度の指定法人ルートでの割合は96%)。未だ、実施市町村数は多くないが、着実に増加している。

【再商品化量推移】



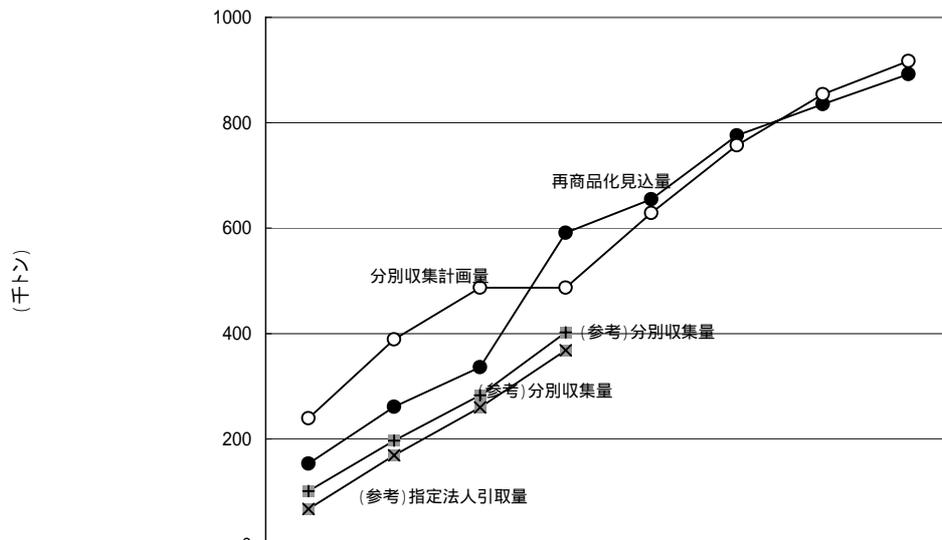
	12年度	13年度	14年度	15年度
市町村分別収集量	101	197	283	402
市町村再商品化量	78	180	269	385
指定法人引取量	67	169	260	368
指定法人製品販売量	44	118	180	256

【実施市町村数推移】



	12年度	13年度	14年度	15年度
分別収集市町村数	881	1,121	1,306	1,685
指定法人引取数	435	673	815	1,222

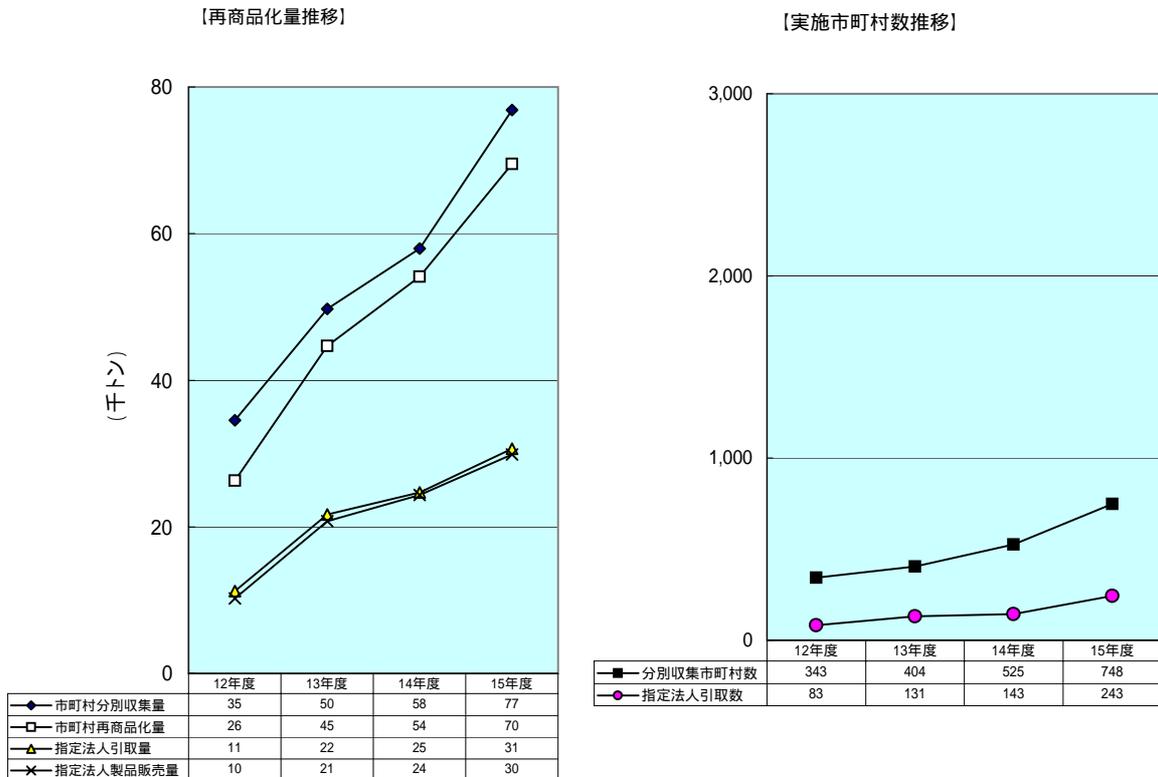
(参考)再商品化見込量、分別収集量の推移



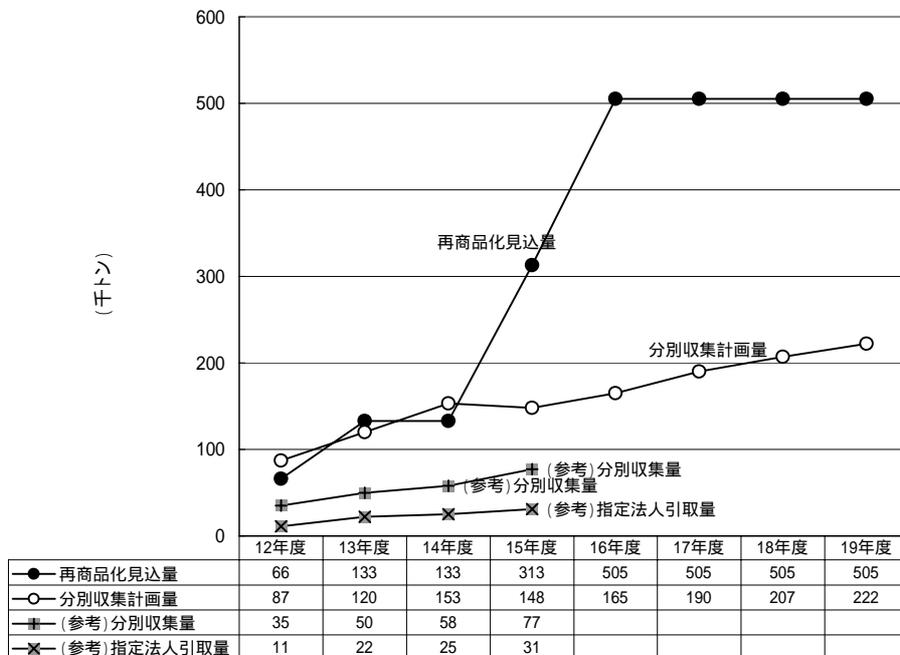
	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
再商品化見込量	153	261	336	591	655	776	835	892
分別収集計画量	239	389	487	487	629	757	854	917
(参考)分別収集量	101	197	283	402				
(参考)指定法人引取量	67	169	260	368				

(6) 紙製容器包装

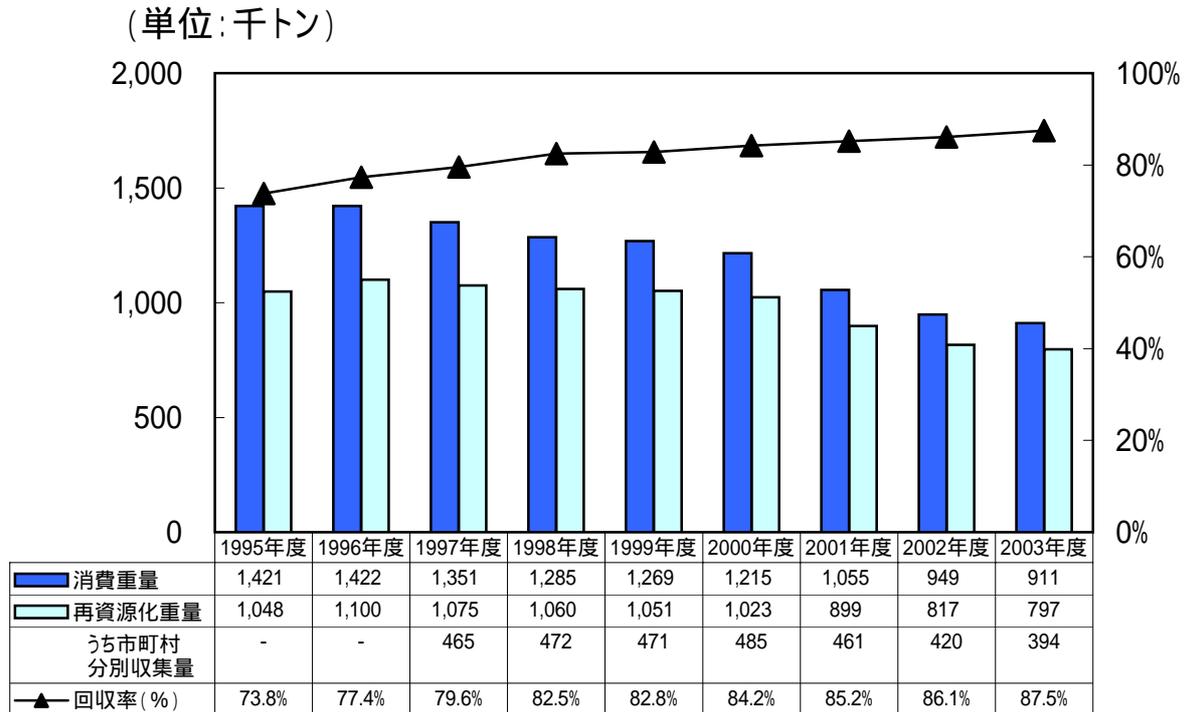
未だ低いレベルであるものの、増加傾向にはある。
 ガラスびんと同様に、市町村独自再商品化の割合が多い(平成15年度市町村独自再商品化割合は56%)。



(参考)再商品化見込量、分別収集量の推移

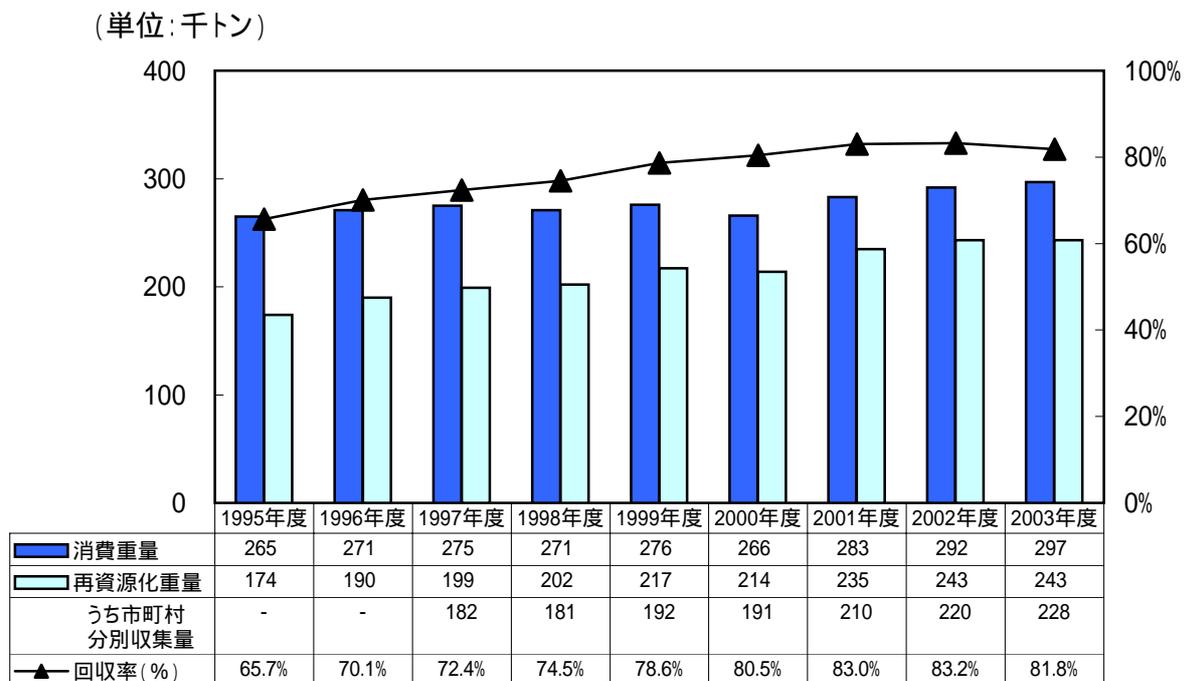


(7) スチール缶のリサイクル状況



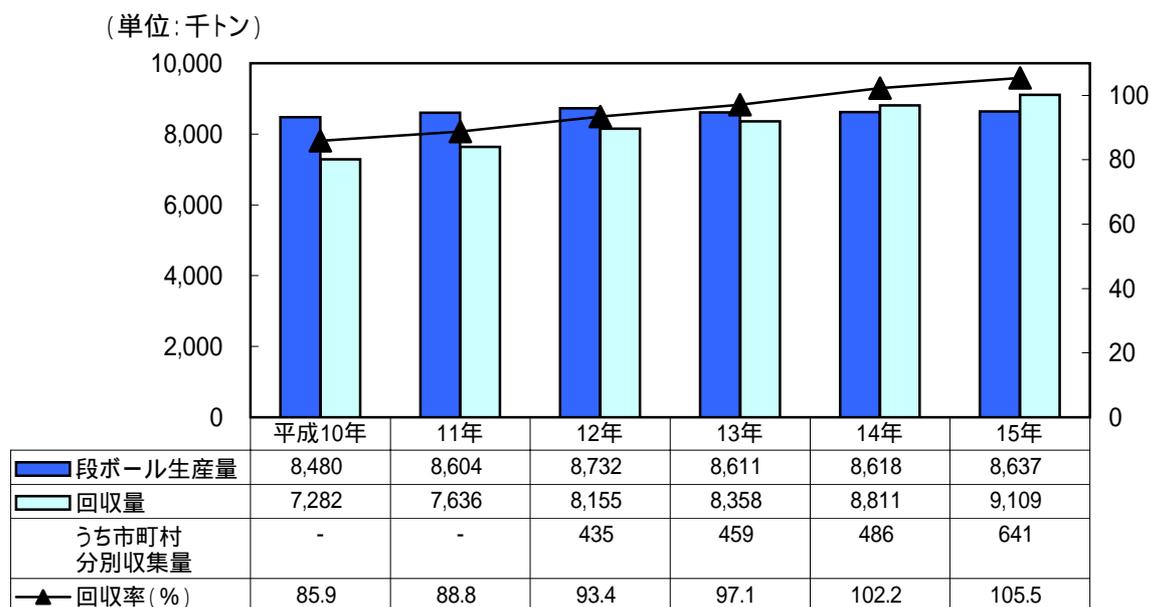
出典 : スチール缶リサイクル協会資料 及び 環境省資料

(8) アルミ缶のリサイクル状況



出典 : アルミ缶リサイクル協会資料 及び 環境省資料

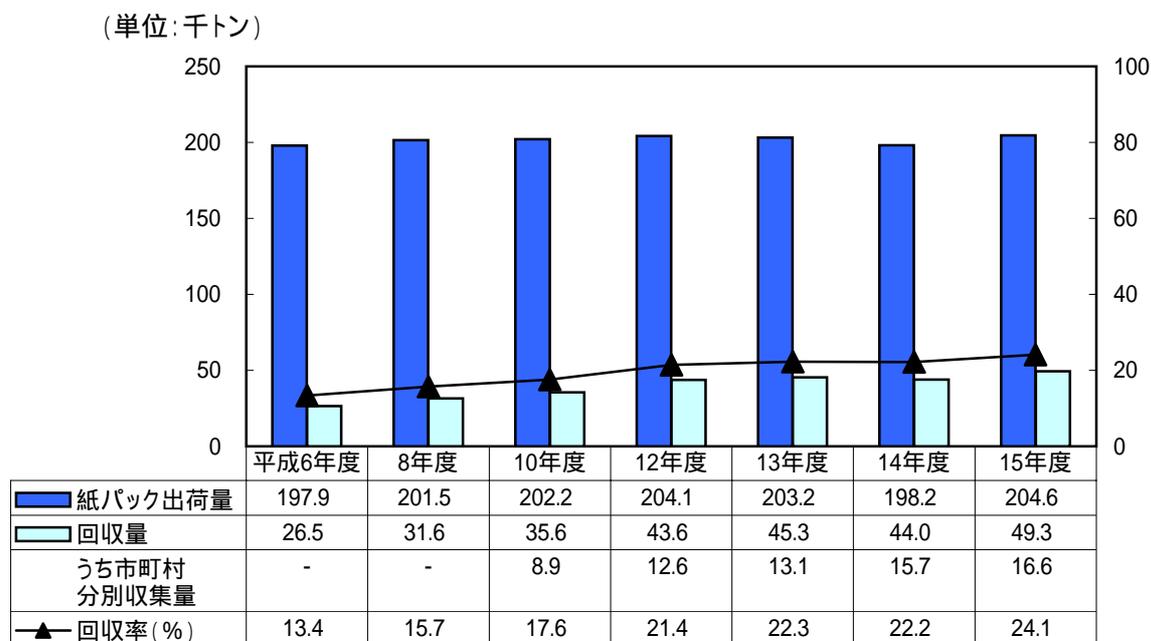
(9) 段ボールのリサイクル状況



輸入製品の運搬・保護用として海外から国内に持ち込まれた段ボールが国内で回収された場合には「回収量」として計上されるため、回収率が100%を超える場合がある。

出典：段ボールリサイクル協議会 及び 環境省資料

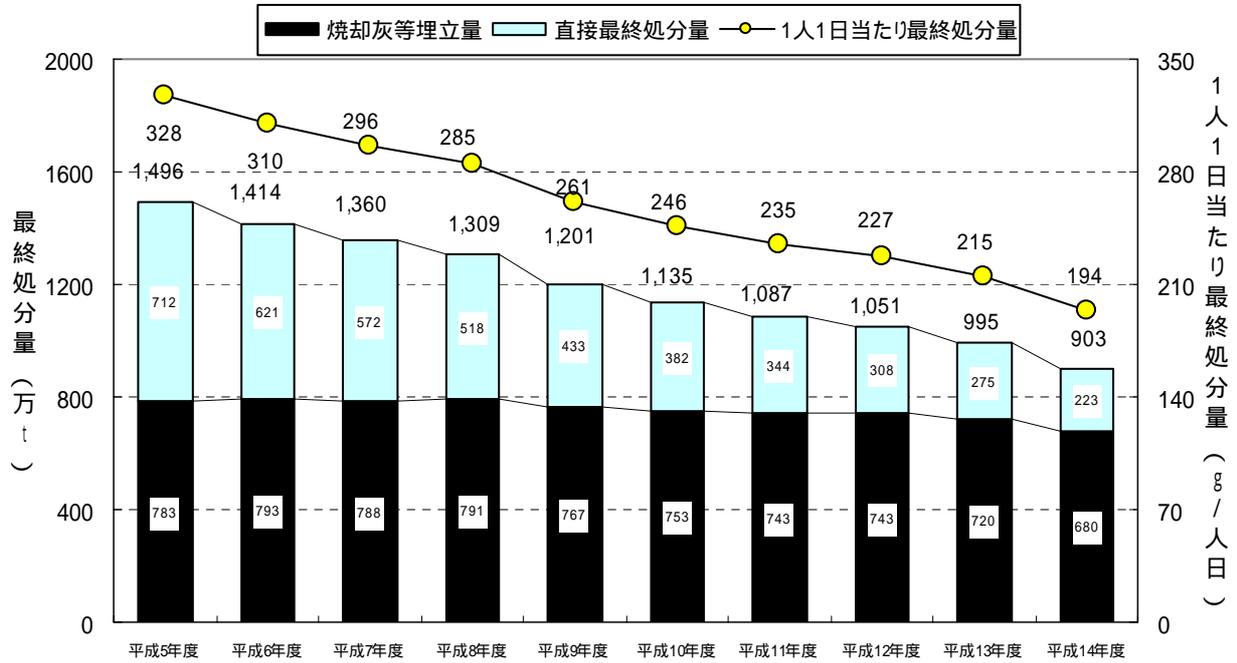
(10) 紙パックのリサイクル状況



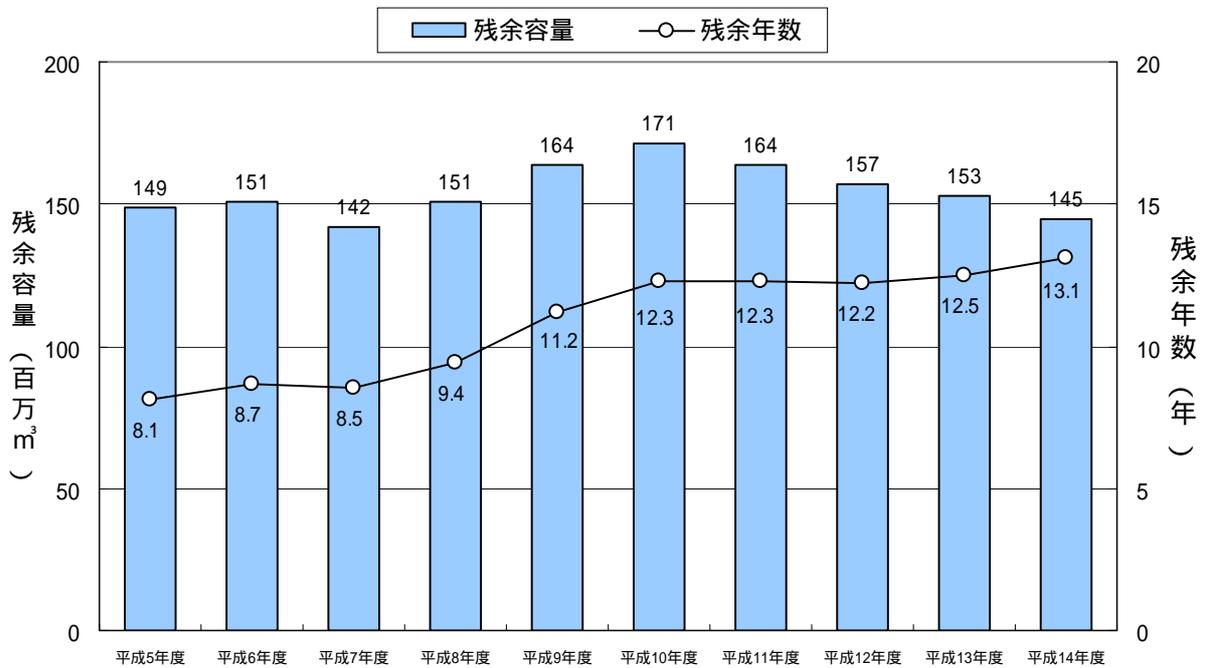
出典：全国牛乳容器環境協議会 及び 環境省資料

2. 一般廃棄物の最終処分量の推移

(1) 一般廃棄物の最終処分量の推移



(2) 一般廃棄物最終処分場の残余容量と残余年数の推移



出典：一般廃棄物の排出及び処理状況等(環境省)

3. 事業者による容器包装の軽量化、リサイクルしやすい設計等の事例

(1) 容器包装廃棄物の軽量化等の事例

容器区分	事業者	容器種類	削減事例	削減効果	備考	
ガラスびん	味の素	味の素75gびん	重量削減(122g 104g)	15%		
	内堀醸造	調味料びん	重量削減(470g 350g)	25.5%		
	カルピス	Welch's800mLびん	重量削減(410g 340g)	17%		
	キュービー	200mLドレッシングびん	重量削減(140g 130g)	7%		
	キリンビバレッジ	200mLリターナブルびん	重量削減(348g 310g)	11%		
	キリンビール	ビール大びん	重量削減(605g 475g)	21%		
	グリーンコープ連合	牛乳びん900ml	重量削減(450g 300g)	33.3%		
	サンアスベルフーズ	調味料びん	重量削減(245g 220g)	10.2%		
	三和酒類	いいちご900ml	重量削減(450g 390g)	13.3%		
	大正製菓	100mLドリンクびん	重量削減(113g 103g)	8.8%		
	宝酒造	焼酎360ml	重量削減(252g 197g)	21.8%		
	土佐醤油	1L醤油びん	重量削減(500g 400g)	20.0%		
	ニッカ・ウイスキー	ブレンド丸びん	重量削減(620g 470g)	24.2%		
	日本ミルクコミュニティ	牛乳びん900ml	重量削減(450g 410g)	8.9%		
	ネスレ日本	ブライトびん	重量削減(315g 300g)	5%		
	ミツカン	調味料びん	重量削減(260g 180g)	30.8%		
	明治乳業	牛乳びん200ml	重量削減(182g 140g)	23.0%		
	養命酒	700mlびん	重量削減(525g 425g)	19.0%		
	ペットボトル	味の素	アミハ イタル用500mLボトル	重量削減(32g 26g)	19%	
		キュービー	ミネラルウォーター-用500mLボトル	重量削減(32g 26g)	19%	
キリンビバレッジ		2Lボトル	重量削減(63g 42g)	33%		
サントリー		500mLボトル	重量削減(32g 23g)	28%		
東洋製罐		耐熱用1500mLボトル	重量削減(59g 51g)	14%		
ニチレイ		アセロラCウォーター-用500mLボトル	重量削減(32g 28g)	12.5%		
日本コカコーラ		2Lボトル	重量削減(55g 48g)	13%		
プラスチック製容器包装	味の素	1000gサラダ油ボトル	重量削減(61g 49g)	20%		
	イオン	レジ袋	重量削減、買い物袋持参運動	7,464万枚	15年度実績	
	伊勢丹	レジ袋(各種サイズ)	重量削減	10%		
	エフピコ	食品トレー	重量削減(38.7g 13.2g)	66%	非発泡PSからPSPに仕様変更	
	花王	ワイドハイター-320mLボトル	重量削減(34g 24g)	29%		
	カゴメ	トマトケチャップボトル	重量削減	5%		
	カルビー	100gえびせん容器	重量削減(6.4g 5.8g)	10%		
	キュービー	500gマヨネーズボトル	重量削減(20.9g 17.8g)	15%		
	キリンビバレッジ	ペットボトルキャップ	重量削減(3.2g 2.9g)	9%		
	コーセー	クレンジングシート等容器	重量削減(36g 18g)	50%		
	資生堂	ファンデーションフィルのカバー	重量削減(5.3g 2.1g)	60%		
	第一屋製パン	パン包装紙	重量削減(30µm 25µm薄肉化)	17%		
	中央化学	食品トレー	重量削減(4.3g 3.6g)	16%		
	ニチレイ	えびチリ君(冷凍食品)等	中トレーの使用中止	(100%)		
	日清オイリオ	700gサラダ油ボトル	重量削減(33g 27g)	18%		
	日本たばこ産業	たばこ10個詰製品	重量削減(包装変更)	(100%)	カートン包装 パーセル包装	
	ヤクルト本社	ヤクルト80Ace(マルチシュリンク)	重量削減(45µm 30µm薄肉化)	33%		
	明治製菓	マルチキス容器	重量削減	20%	複層 単層化	
	明治乳業	3連ヨーグルトシュリンク包装	重量削減(15µm 12µm薄肉化)	20%		
	森永製菓	アイスガイ容器	重量削減(12g 9g)	25%		
	森永乳業	ピヒダスヨーグルト容器	重量削減(21g 16g)	24%	併せて単一素材化を実施	
	ライオン	ポディソープボトル	重量削減	26%		
ロッテ	クランキービス容器	プラトレーの使用中止	(100%)			

容器区分	事業者	容器種類	削減事例	削減効果	備考
紙製容器包装	伊勢丹	食品用紙製手付袋(大)	重量削減(75.8g 64.4g)	15%	
	江崎グリコ	POCKY容器	重量削減	13%	
	王子ネピア	ふんわりスリム容器	重量削減(箱高さ削減)	23%	
	花王	オーブ紙箱	重量削減(4.3g 3.8g)	12%	
	資生堂	ファンデーションフィルムの紙ケース	重量削減(7.0g 5.3g)	24%	
	日清食品	どん兵衛等(ふた)	重量削減(2.98g 2.09g)	7%	
	日本生協連	レトルトビーフカレー等紙箱	外箱の使用中止	(100%)	
	日本たばこ産業	たばこ10個詰製品	重量削減(20.6g 8.5g)	59%	カートン包装 バール包装
	明治製菓	PICKUP容器	重量削減	35%	
	森永製菓	ホットケーキミックス紙箱	重量削減(32g 29g)	9%	
	ロッテ	チョコパイ容器	重量削減	11%	

出典:各事業者の環境報告書、ガラスびんリサイクル促進協議会調べ、PETボトルリサイクル推進協議会調べ、プラスチック容器包装リサイクル推進協議会調べ、紙製容器包装リサイクル推進協議会調べ

(参考)事業者のリデュースに加え、易リサイクル化も進展

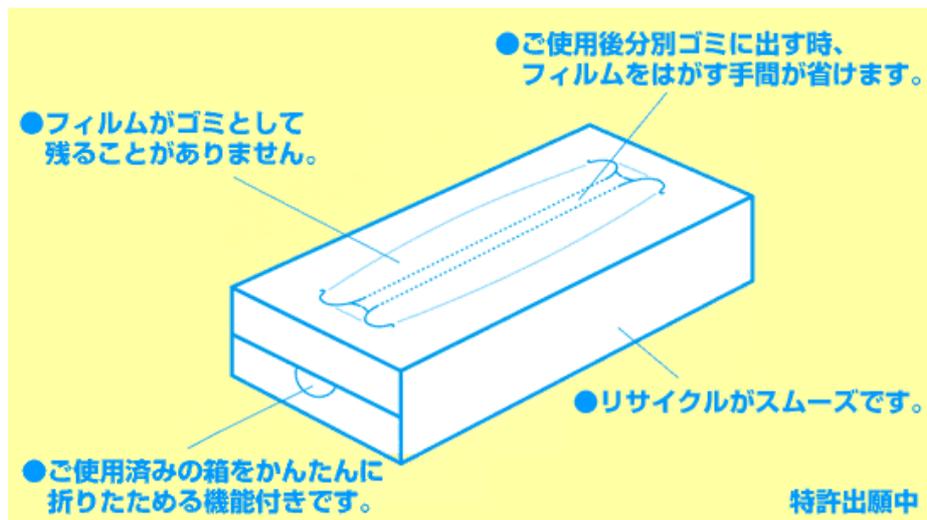
特定事業者による容器包装の易リサイクル化取組の一例

容器区分	事業者	容器種類	取組事例
ガラスびん	キュービー	ドレッシングびん	紙ラベルの糊を改質して剥がれやすい構造とした。
PETボトル	キッコーマン	醤油用ボトル	プラ製の下蓋を分離可能構造とした。
	協和発酵	大五郎4Lボトル	把手の材質をプラからボトルと同一のPETに変更した。
プラスチック製容器包装	花王	アタック等粉末洗剤	単一素材化(紙とプラの多重容器をプラに単一化)
	キュービー	パスタソース容器	単一素材化(アルミとプラの複合素材をプラに単一化)
	資生堂	シャンプー容器	ごみの減容化のため、空容器を潰し折りたたんだ状態で保持できるようにした。
	ポーラディリーコスメ	寝ぐせなおしウォーター	ごみの減容化のため、空容器を潰し折りたたんだ状態で保持できるようにした。
	マンダム	ルシードヘアスプレー	アルミ容器にセットされている肩カバーと押しボタン部を容易に分離可能な構造とした。
	森永乳業	ピヒダスヨーグルト容器	単一素材化(紙とプラの多重容器をプラに単一化)
	ライオン	チャーミーV	ごみの減容化のため、空容器を潰し折りたたむ構造とした。
紙製容器包装	王子ネピア	ティッシュボックス	単一素材化(取り出し窓フィルムを廃止)
	花王	フローネヘアカラー	単一素材化(プラスチックフィルム窓張り廃止)

(2) リサイクルしやすい設計に配慮している事例

< 事例 1 >

環境に配慮し、取り出し口の
フィルムをなくしました。
使い終わった箱はたたんで
そのままリサイクル！



出典：王子ネピア（株）ホームページ

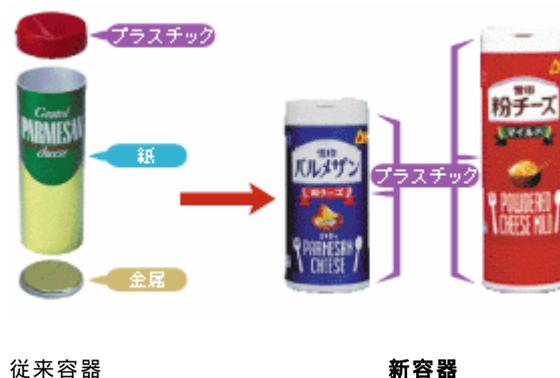
http://www.nepia.co.jp/big/topics/hoxy_film.html

< 事例 2 >

プラスチックの単一素材だから、カンタン廃棄。

【粉チーズ】

易廃棄性を考慮し、紙・金属を含む複合素材からプラスチックの単一素材に変更しました。おいしさと品質の劣化を防止するため、容器に遮光性を持たせるとともに、ガスバリア性の向上を図りました。計量など料理時の利便性を考慮し、ふた全体の取り外しを可能にしました。



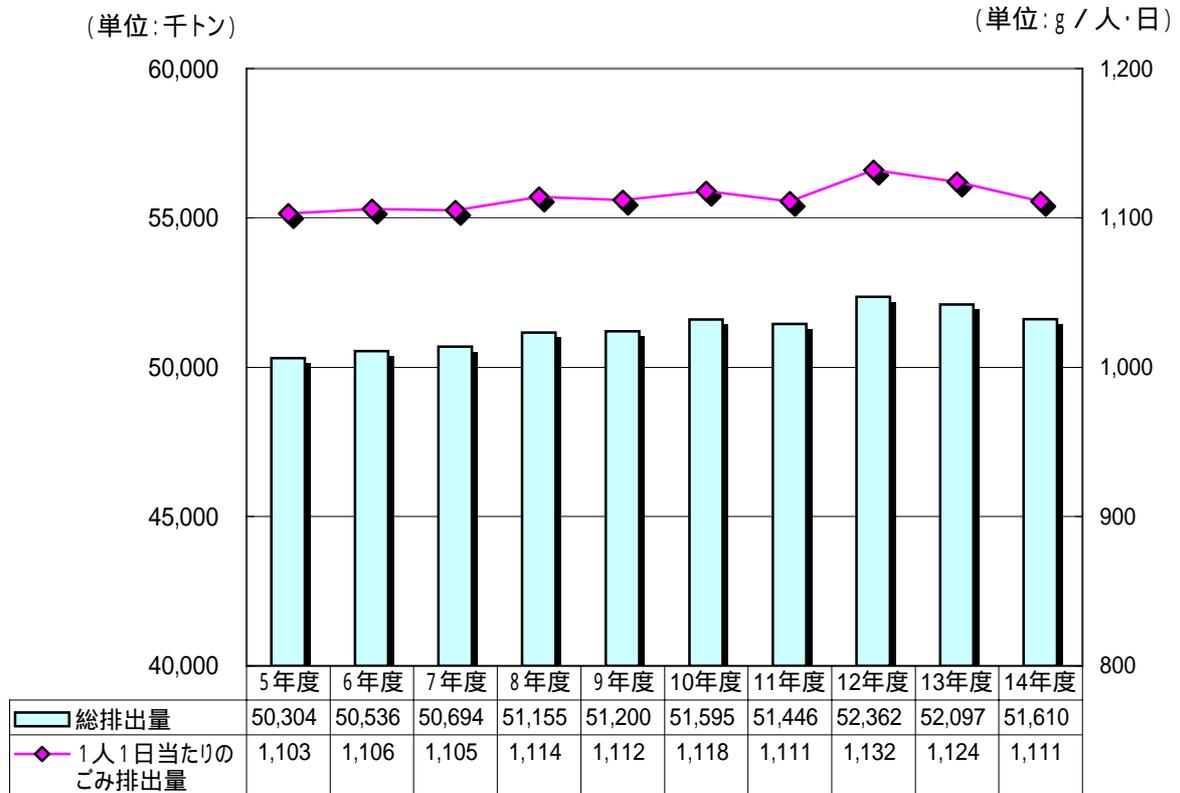
そのままプラスチックとして捨てられます。

出典：雪印乳業（株）環境報告書 2003

<http://www.snowbrand.co.jp/kankyo/>

4. ごみの排出量及び容器包装廃棄物の割合

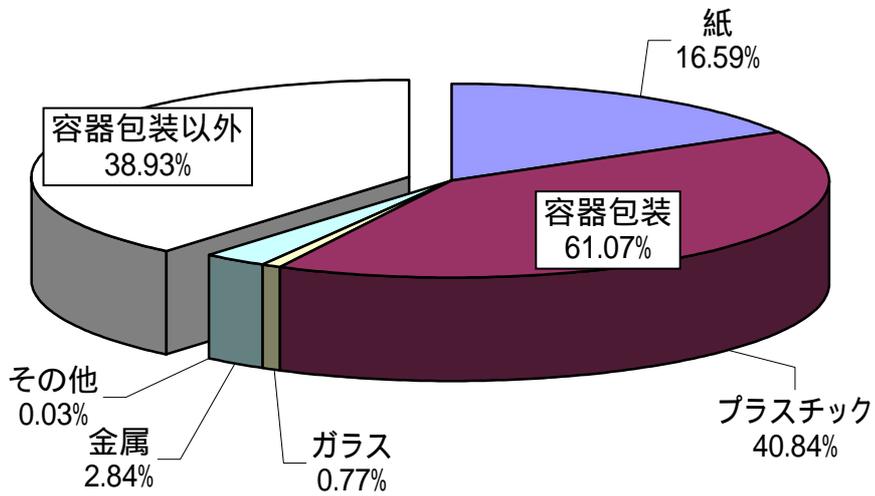
(1) ごみの排出量と1人1日当たりのごみ排出量



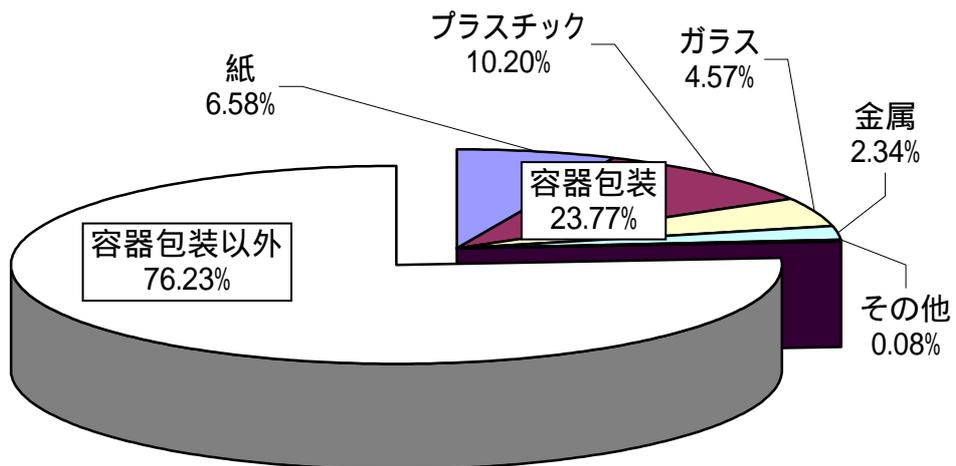
出典:環境省「日本の廃棄物処理」

(2) 家庭ごみ中の容器包装廃棄物の割合 (平成14年度)

1. 容積比



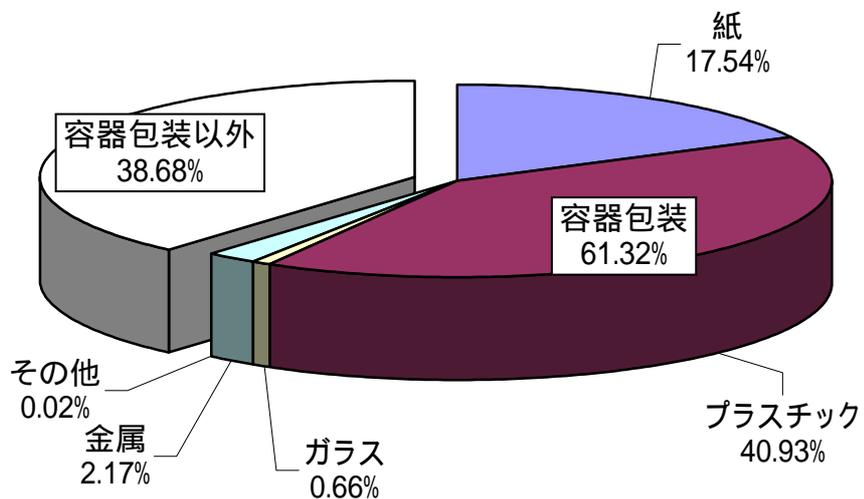
2. 重量比



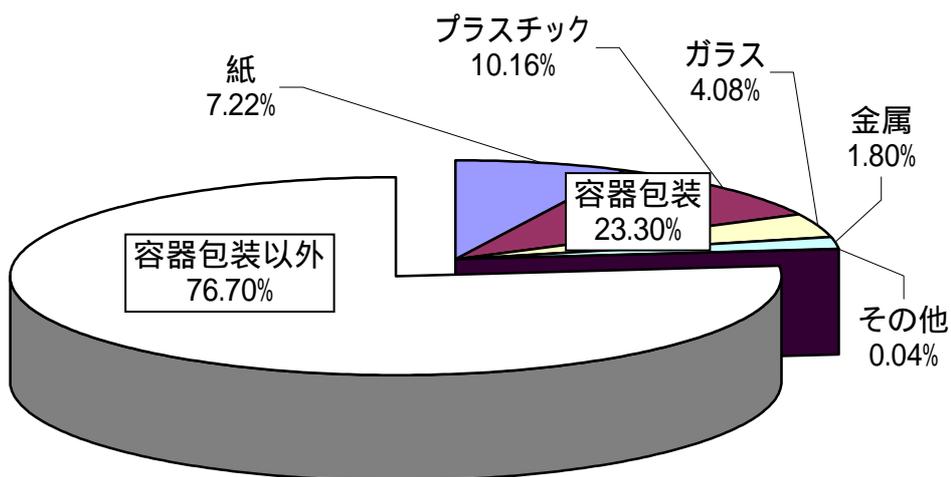
出典 : 環境省「容器包装廃棄物の使用・排出実態調査」

(3) 家庭ごみ中の容器包装廃棄物の割合 (平成15年度) 【参考】

1. 容積比



2. 重量比



出典 : 環境省「容器包装廃棄物の使用・排出実態調査」

5. 再商品化に係る特定事業者の費用負担等（指定法人ルート）

再商品化実績単価については、ガラスびんがカレット市況の影響で上下しているものの、再商品化事業者間の入札による競争の影響もあり総じて減少基調にある。

特定事業者の再商品化費用の負担額を見ると、プラスチック製容器包装については、市町村による分別収集量の増加に伴い、大きく増加している。一方、その他の品目は、分別収集量が減少又は伸びが少ないこと、再商品化単価が低下していることなどから、横這い又は減少傾向を示している。

なお、容器包装リサイクル法完全施行時に59,449であった指定法人と再商品化契約を締結した特定事業者の数は、平成15年度には67,196と年々増加している。

(1) 再商品化実績単価

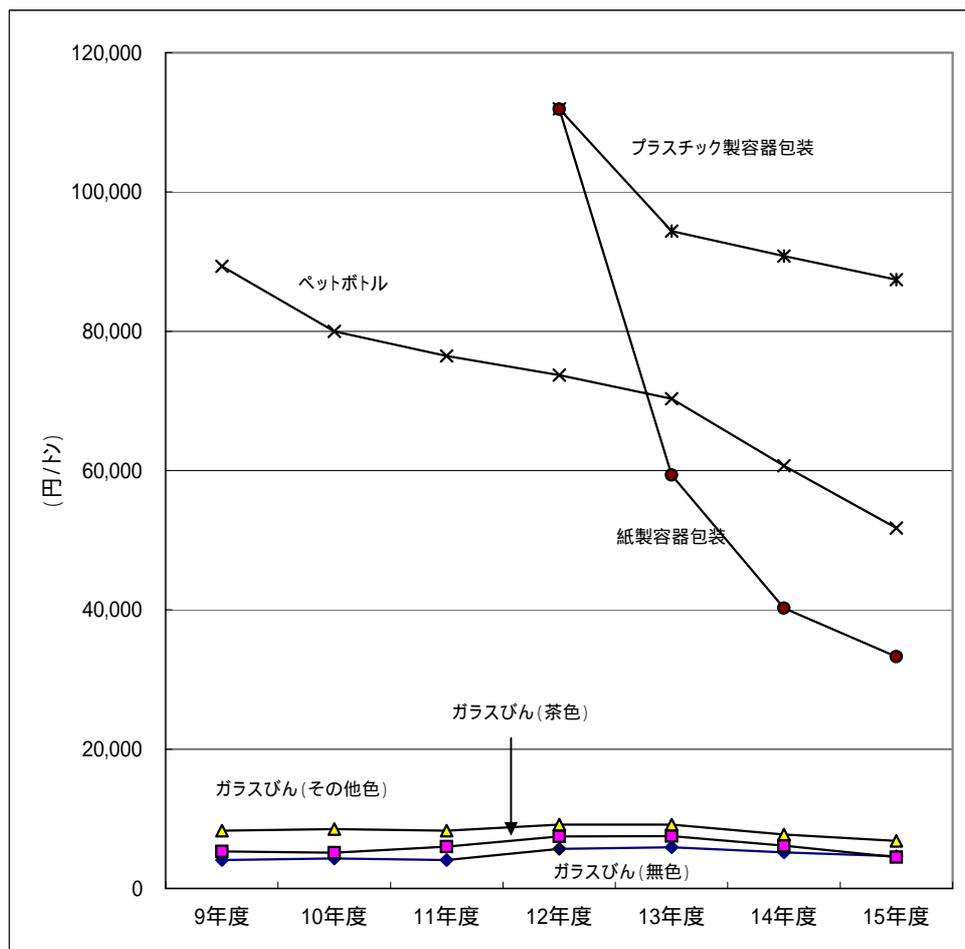
単位:円/トン

	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度
ガラスびん(無色)	4,066	4,328	4,078	5,669	5,914	5,196	4,610
ガラスびん(茶色)	5,310	5,111	5,994	7,459	7,497	6,131	4,497
ガラスびん(その他色)	8,288	8,547	8,302	9,174	9,176	7,731	6,824
ペットボトル	89,352	79,993	76,478	73,688	70,308	60,699	51,765
プラスチック製容器包装				111,911	94,372	90,790	87,401
紙製容器包装				111,874	59,360	40,261	33,257

出典:(財)日本容器包装リサイクル協会 資料

注1:再商品化実績単価 = 再商品化費用(指定法人の直接経費を含む) / 再商品化量

注2:市町村委託分を含めて計算

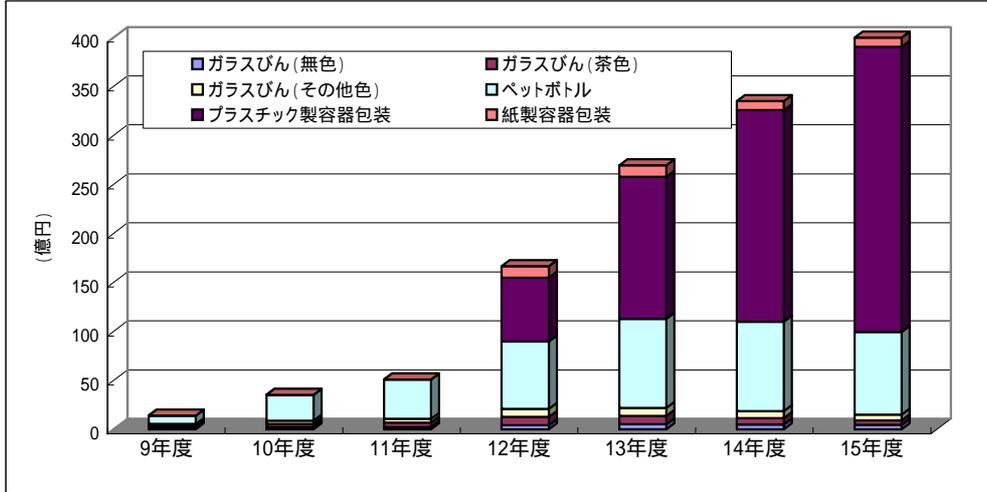


(2) 特定事業者の再商品化費用負担総額

単位:百万円

	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度
ガラスびん(無色)	169	238	238	445	534	489	470
ガラスびん(茶色)	220	324	465	820	836	658	461
ガラスびん(その他色)	160	319	367	842	816	730	593
ペットボトル	867	2,662	4,021	6,850	9,104	9,106	8,422
プラスチック製容器包装	-	-	-	6,526	14,486	21,594	29,100
紙製容器包装	-	-	-	1,170	1,174	927	945
合計	1,416	3,543	5,091	16,653	26,950	33,504	39,991

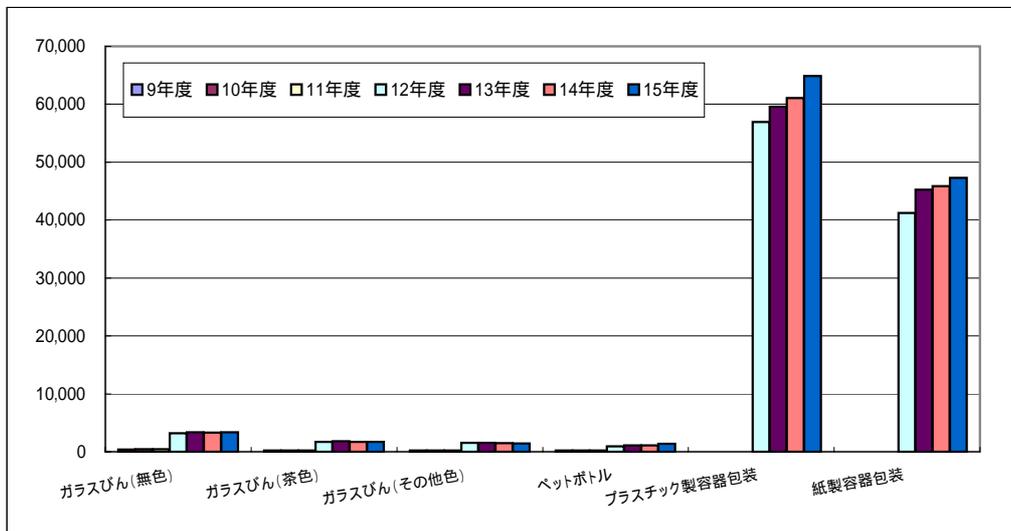
出典:(財)日本容器包装リサイクル協会 資料



(3) 指定法人と再商品化契約を締結した特定事業者数

	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度
総数	500	521	519	59,449	62,057	63,595	67,196
ガラスびん(無色)	407	423	420	3,208	3,337	3,325	3,350
ガラスびん(茶色)	241	241	248	1,722	1,798	1,707	1,714
ガラスびん(その他色)	209	216	214	1,548	1,552	1,508	1,431
ペットボトル	198	211	201	962	1,088	1,087	1,377
プラスチック製容器包装	-	-	-	56,944	59,609	61,067	64,861
紙製容器包装	-	-	-	41,206	45,262	45,878	47,281

出典:(財)日本容器包装リサイクル協会 資料



6. 指定法人ルートの再商品化事業者の動向

指定法人と契約する再生処理事業者数については、各品目とも増加の傾向を示している。

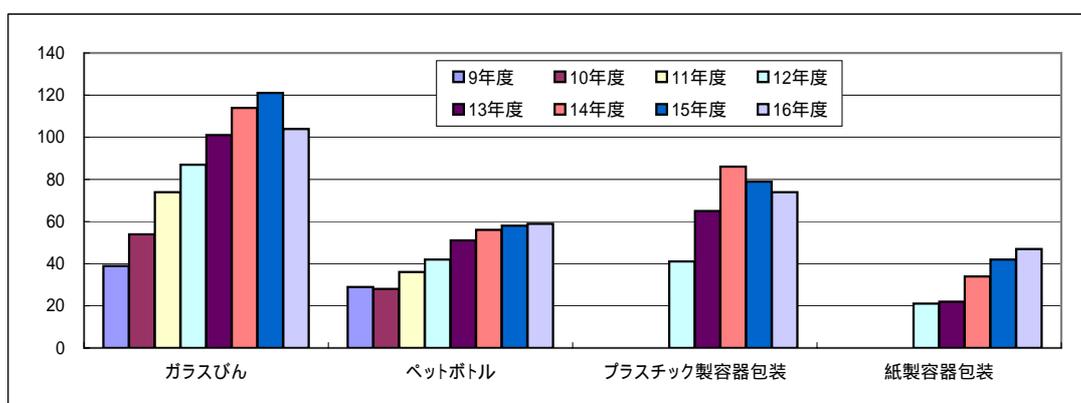
なお、指定法人による審査の厳格化等に伴い、プラスチック製容器包装については15年度以降、ガラスびんについては16年度に事業者数が減少することとなったが、この反動もあり17年度は各品目とも、ある程度の新規登録申請が行われる見込となっている。(特に、プラスチックの材料リサイクル事業者の新規登録申請が多数ある模様。)

再商品化落札単価(加重平均)については、再商品化事業者間の入札による競争の影響もあり総じて減少基調にあり、特にペットボトル、紙製容器包装の顕著に減少している。

(1) 指定法人が再商品を委託した再生処理事業者数

	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度
ガラスびん	39	54	74	87	101	114	121	104
ペットボトル	29	28	36	42	51	56	58	59
プラスチック製容器包装	-	-	-	41	65	86	79	74
紙製容器包装	-	-	-	21	22	34	42	47

出典：(財)日本容器包装リサイクル協会 資料

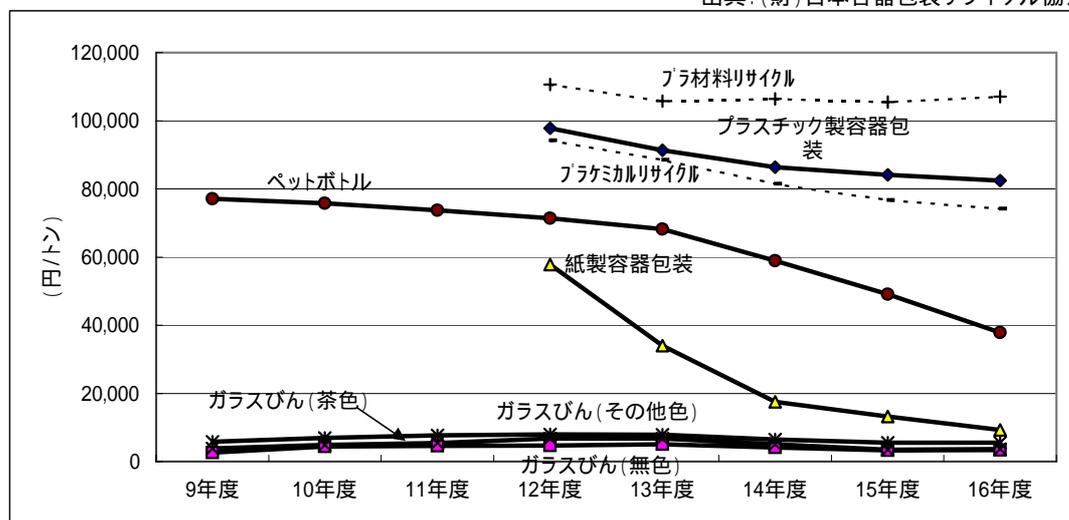


(2) 再商品化落札単価(加重平均)

(単位: 円/トン)

	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度
ガラスびん(無色)	2,600	4,400	4,600	4,700	5,100	4,100	3,300	3,400
ガラスびん(茶色)	3,800	4,900	5,400	6,700	6,700	5,100	3,500	3,700
ガラスびん(その他色)	5,800	6,900	7,700	8,000	7,900	6,500	5,500	5,500
ペットボトル	77,100	75,800	73,700	71,400	68,200	58,900	49,100	37,800
プラスチック製容器包装				97,800	91,300	86,400	84,100	82,400
材料リサイクル				110,600	105,800	106,400	105,500	107,100
ケミカルリサイクル				94,200	88,500	81,500	76,700	74,200
紙製容器包装				57,800	34,000	17,500	13,200	9,300

出典：(財)日本容器包装リサイクル協会 資料



7. ガラスびんのリサイクル状況

ガラスびんの生産が減少基調にある中、分別収集されたガラスびんから再商品化されたカレットの利用量はほぼ横這いとなっており、これによりカレット利用率は微増傾向にある。

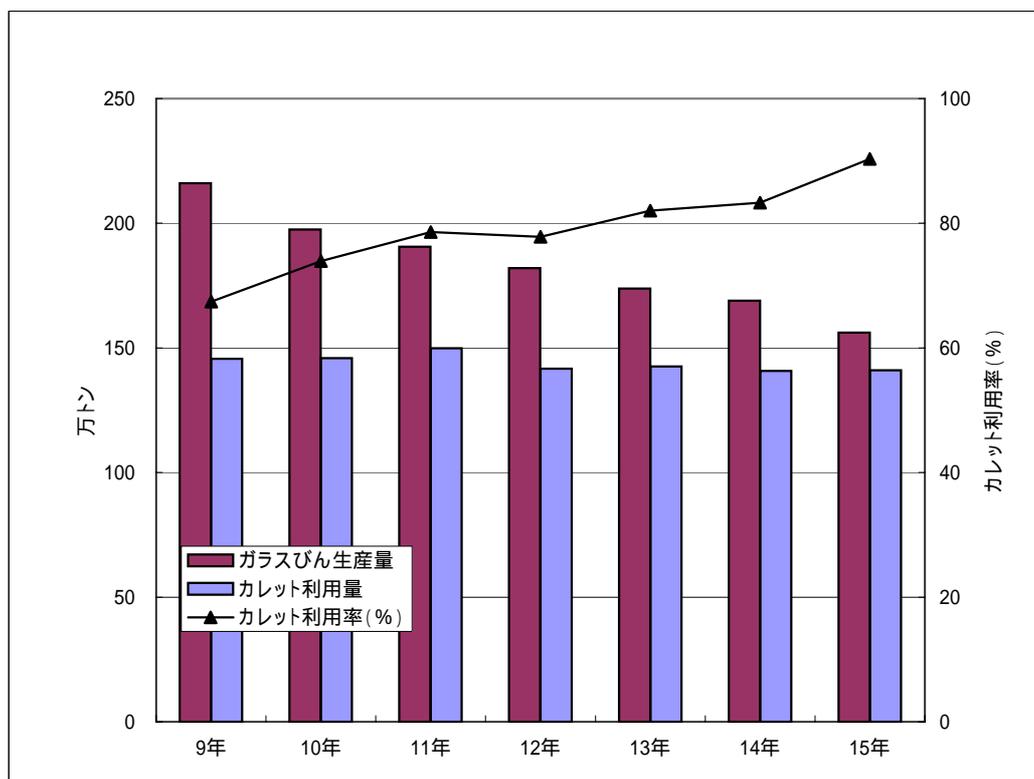
指定法人ルートのカレットの用途については、平成14年度に減少に転じていたびん原料向けが15年度に回復し、その一方、他用途向けが減少した。これにより、容器包装リサイクル法施行以降年々減少傾向にあったびん原料の割合が平成15年度増加に転じた。

(1) ガラスびんの生産量及びカレットの利用量・率

単位: 万トン

	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年
ガラスびん生産量	216.0	197.5	190.6	182.0	173.8	168.9	156.1
カレット利用量	145.6	145.9	149.8	141.6	142.5	140.8	141.0
カレット利用率 (%)	67.4	73.9	78.6	77.8	82.0	83.3	90.3

出典: 雑貨統計、日本ガラスびん協会 資料、ガラスびんフォーラム 資料



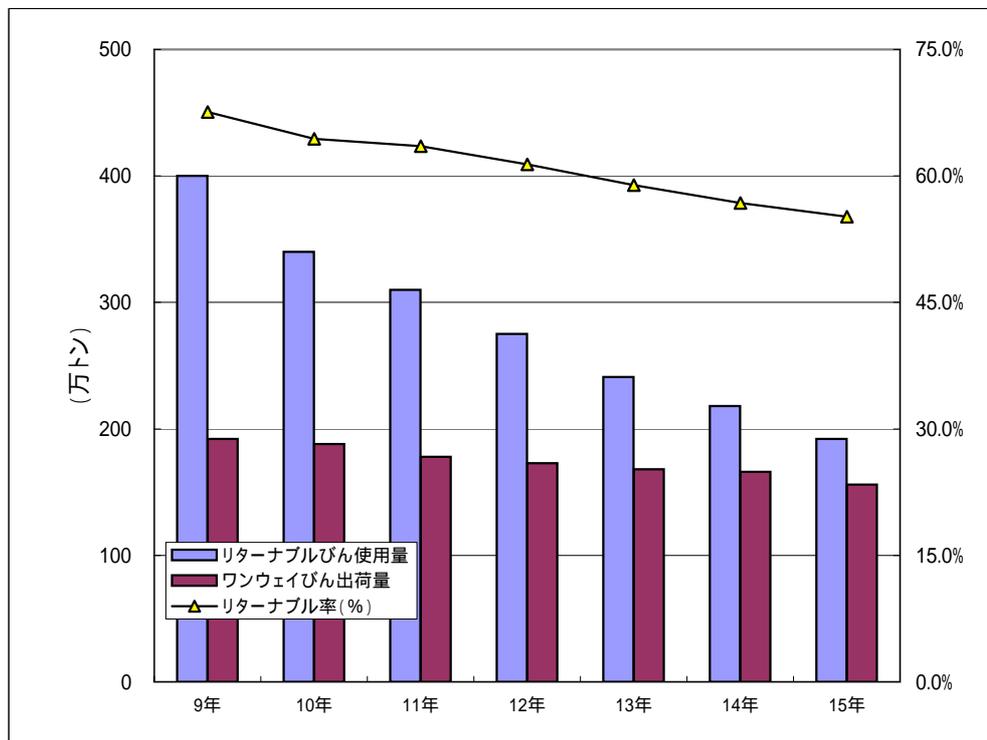
(参考)リターナブル率の推移

単位:万トン

	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年
リターナブルびん使用量	400	340	310	275	241	218	192
ワンウェイびん出荷量	192	188	178	173	168	166	156
リターナブル率(%)	67.6%	64.4%	63.5%	61.4%	58.9%	56.8%	55.2%

出典: ガラスびんリサイクル促進協議会 資料

注: リターナブル率 = リターナブルびん使用量 / (リターナブルびん使用量 + ワンウェイびん出荷量)



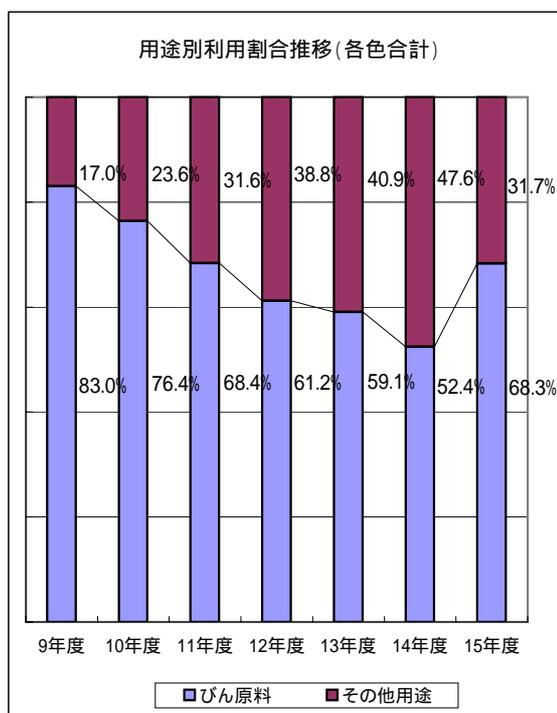
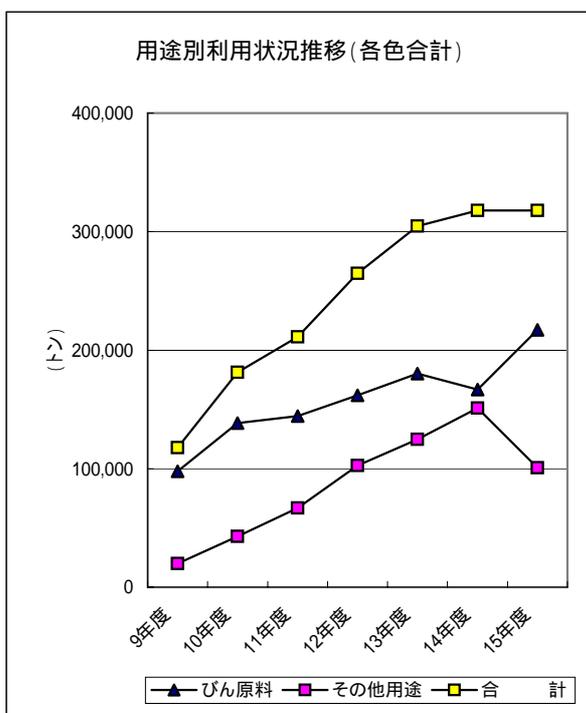
(2) カレットの用途別利用状況(指定法人ルート)

用途別利用状況推移(各色合計)

単位:トン

	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度
びん原料	97,806	138,383	144,485	161,988	180,083	166,653	217,118
その他用途	20,005	42,764	66,821	102,700	124,681	151,164	100,648
ガラス短繊維	0	3,232	7,477	13,332	14,865	14,909	19,918
焼成タイル	0	0	8,273	18,405	14,326	5,704	6,137
舗装用骨材	9,837	11,830	34,813	28,712	39,086	52,751	14,356
路盤材・埋戻し材	8,905	15,985	10,171	15,244	14,867	45,166	33,705
土木・建築材	1,263	11,717	6,087	27,007	41,537	32,634	26,532
合計	117,811	181,147	211,306	264,688	304,764	317,817	317,766

出典:(財)日本容器包装リサイクル協会 資料



色別「びん原料」利用割合推移

単位:%

	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度
無色	97.8	99.9	97.9	95.4	96.8	80.4	90.8
茶色	97.0	96.0	82.9	81.3	71.9	68.0	89.9
その他色	24.4	22.0	14.6	8.4	5.6	4.2	16.0

出典:(財)日本容器包装リサイクル協会 資料

8. ペットボトルのリサイクル状況

ペットボトルは、生産量が増加しているものの、分別収集量も着実に増加している。市町村によるペットボトルの収集量は、容リ法による再商品化が開始された平成9年度には生産量の9.8%に過ぎなかったが、平成15年度には48.5%まで増加した。更に、市町村収集量に事業系回収量54,000トン（PETボトルリサイクル推進協議会調べの速報値）を加えた回収率は60.9%まで至っている。

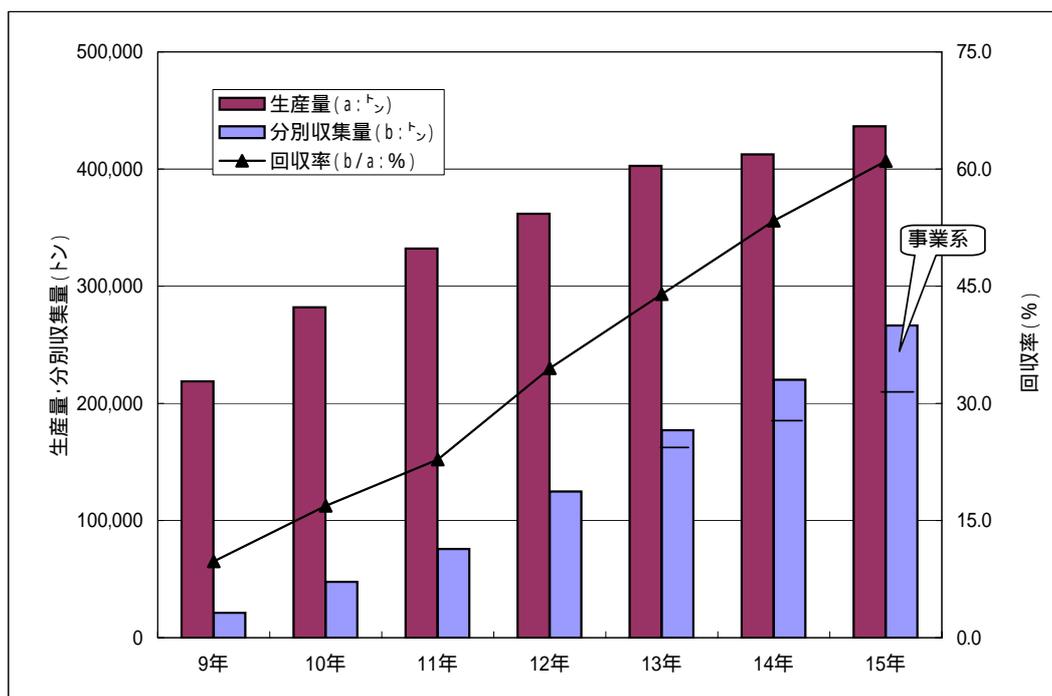
指定法人ルートでの再商品化製品用途については、平成15年にBtoB事業者が新規参入した影響もあり、繊維、成型品、その他向けが減少となった一方、ボトル向けが大幅に伸びている。また、シート向けについても底堅い需要が続いている。

(1) ペットボトルの生産量と分別収集量の推移

	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年
生産量(a:トン)	218,806	281,927	332,202	361,944	402,727	412,565	436,556
分別収集量(b:トン)	21,361	47,620	75,811	124,873	177,186	220,256	266,405
市町村収集量(トン)	21,361	47,620	75,811	124,873	161,651	188,194	211,753
事業系回収量(トン)	-	-	-	-	15,535	32,062	54,652
回収率(b/a:%)	9.8	16.9	22.8	34.5	44.0	53.4	61.0

出典：PETボトル協議会 資料、環境省 資料、PETボトルリサイクル推進協議会 資料

事業系回収量はPETボトルリサイクル推進協議会の調査による値

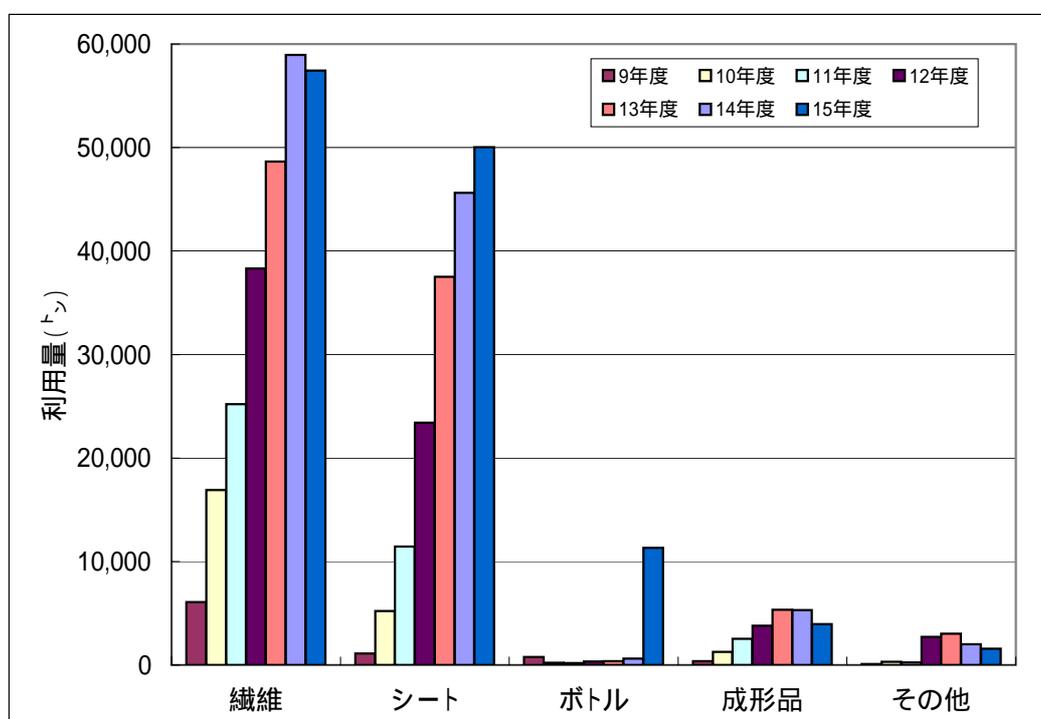


(2) 再商品化製品の用途別利用状況（指定法人ルート）

単位：トン

	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度
繊維	6,077	16,895	25,188	38,317	48,659	58,940	57,445
シート	1,112	5,218	11,450	23,407	37,510	45,632	50,021
ボトル	756	211	179	326	381	606	11,312
成形品	366	1,265	2,530	3,802	5,330	5,314	3,944
その他	87	320	258	2,723	3,032	1,993	1,576
合計	8,398	23,909	39,605	68,575	94,912	112,485	124,298

出典：(財)日本容器包装リサイクル協会 資料



9. プラスチック製容器包装再商品化製品の用途別利用状況(指定法人ルート)

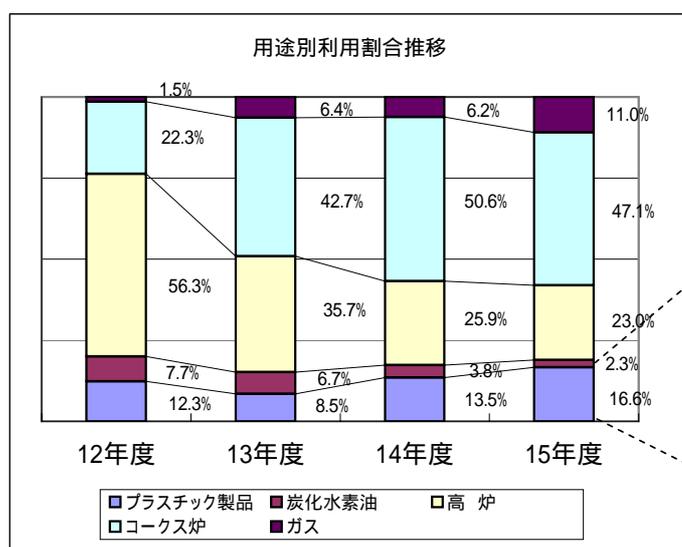
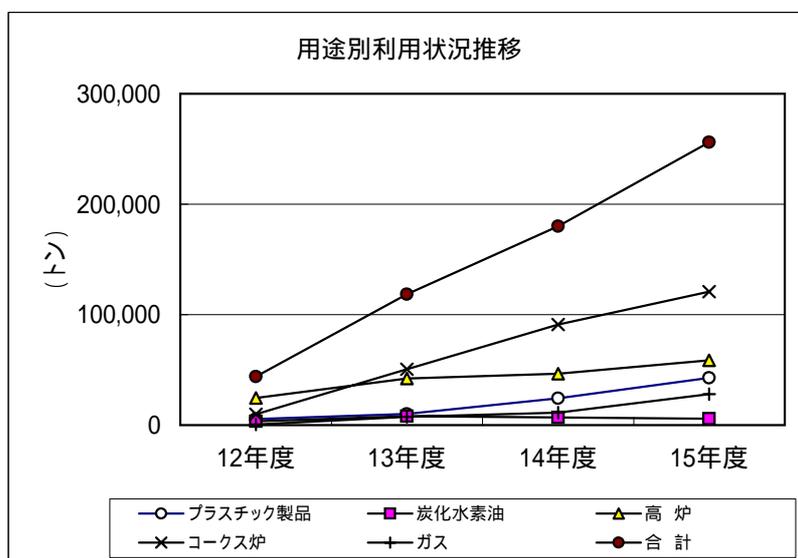
15年度利用状況を14年度比でみると、水素及び一酸化炭素を主成分とするガスの利用は2.5倍、プラスチック製品等の原材料としての利用は約1.8倍となっているのを初めとして、炭化水素油を除きいずれの用途も増加している。

15年度の用途別割合については、上記2品目の増加に伴い、コークス炉原料炭代替物が絶対量では前年から最も大きく増加したもののシェアは減少となった。

単位:トン

	プラスチック製品 原材料	炭化水素油	高 炉 還元剤	コークス炉 原料炭代替物	ガス	合 計
12年度	5,402	3,361	24,656	9,771	638	43,830
13年度	10,023	7,981	42,306	50,631	7,529	118,470
14年度	24,347	6,831	46,621	91,175	11,188	180,162
15年度	42,648	5,847	58,811	120,767	28,076	256,150

出典:(財)日本容器包装リサイクル協会 資料



材料リサイクル製品の用途別内訳
(15年度)

建築用ボード	24%
杭・丸太・角材	13%
パレット	19%
樹脂原料として販売	18%
土木・建築資材	6%
ケーブルトラフ	7%
工業用部品	3%
園芸農業資材	2%
日用雑貨	3%
擬木	3%
その他	2%

10. 紙製容器包装再商品化製品の用途別利用状況（指定法人ルート）

製紙原料以外の材料向け及び固形燃料向けが減少基調にある一方、製紙原料向けが一貫して増加を続けている。

これにより、平成12年に44%であった製紙原料向けの割合が、平成15年度には90%となり、再商品化用途の大半を占めることとなった。

単位：トン

	製紙原料	材料 (製紙原料以外)	固形燃料	合計
12年度	4,546	2,566	3,118	10,230
13年度	15,301	1,196	4,295	20,793
14年度	20,284	157	3,917	24,358
15年度	26,969	15	2,897	29,881

出典：(財)日本容器包装リサイクル協会 資料

